（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	薩摩川内市子ども発達支援センターつくし園（児童発達支援センター）			
○保護者評価実施期間	令和7年1月6日		～	令和7年1月31日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	56	（回答者数）	50
○従業者評価実施期間	令和7年1月6日		～	令和7年1月31日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	19	（回答者数）	19
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月14日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「児童発達支援ガイドライン」に基づいた、遊びを通した個々の発達段階に応じた療育活動を行い、身辺自立等の発達を総合的に支援する。	・５領域をバランスよく取り入れた療育活動の策定 ・バス送迎や給食を取り入れた長時間療育による、生活支援や身辺自立支援の充実	・専門家による職員研修の充実（センター機能強化による他の事業所への研修機会の拡充） ・衣・食・住の身辺自立の更なる療育支援の充実と集団づくりによる個性の伸長の研究
2	子どもの個性を大切に、発達段階や個人の特性を考慮しながら、家族への継続的な支援を行い負担軽減を図る。	・保護者会活動による保護者同士の交流の場の設定 ・療育参観の実施による本園療育活動の理解促進と、面談による情報共有や協力態勢の構築 ・親子活動や家族参加行事の実施を通した交流機会の設定 ・週報や月報を通した広報活動の充実	・保護者交流会の設定機会の拡充（センター機能強化による他事業所保護者を含めた交流会の設定） ・保護者会組織（保護者会は令和６年度にて終了）の解散に伴う保護者会行事の園による運営の継続 ・HPやインスタグラムの作成及び更新
3	保育所等や小中学校及び理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・音楽療法士など、発達支援の専門家や関係機関とのネットワーク化を図り、地域資源を活用した社会的自立を目指した療育を推進する。	・保育所等との定期的な連絡会の実施や小中学校との移行支援シートを活用した情報共有の場の設定 ・嘱託医による定期的な健康診断や相談を通しての医学的アドバイスの享受 ・OT,PT,ST,MTによる専門分野からの支援と情報共有	・訪問支援（センター機能強化事業、保育所等訪問支援事業、巡回支援専門員整備事業、障害児等療育支援事業）と連携した情報共有 ・専門職との情報共有やアドバイスの享受は、児発管とグループリーダーが参加し、しっかりと時間確保する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	バス送迎業務と療育支援業務が８：３０～１６：３０と長時間にわたり、保護者との連携時間等が加わると、業務負担過重となり、時間外勤務が生じている。	・バス送迎業務の負担 ・５時間療育の負担 ・時間外の家庭との連携業務	・添乗業務職員（非常勤）の確保 ・療育時間の短縮（５時間→４時間） ・保護者への理解と周知及び送迎業務の調整
2	４グループ編成で活動しているが、互いの連携時間が余り確保できず、グループ間の連携がとれない。そのため、個性的な療育活動はあっても、他の良さを取り入れた活動が展開されにくい状況にある。	・グループシフト制への固執 ・グループ内及びグループ間の連携時間の確保 ・互いの療育発表・参観の機会設定	・センターが３グループ制となるのを契機として、グループを解体しての活動も積極的に取り入れていく。 ・児発管を中心としたリーダー会議を定期的にもち、グループ間の連携の時間を確保する。 ・職員研修に、各グループ毎の療育発表を組み込んで、互いの設定療育を参観し意見交換する場を設ける。
3	併行通園先への送迎がほぼ１００％であり、保護者が送迎し、その受け渡し時に職員と情報交換する機会は少ない。そのため、保護者連携の時間を設定する必要がある。	・働き方改革による保護者会活動の参加への負担 ・保育所等との連携不足 ・療育参観（自由参観日）の設定	・保護者会の廃止に伴い、保護者同士が集う場も少なくなるため、円行事や面談・参観をこれまで以上に設定し、保護者同士の語り合いの場を設ける。

（別紙４）

公表　保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	薩摩川内市子ども発達支援センターつくし園（児童発達支援センター）

公表日　令和７年　３月　６日

利用児童数　令和７年　１月　６日　５６名　　回収数　５０名

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	47	1	0	2	・親としては活動によって部屋を変えているので十分だと思いますが、子どもは、ワークスペースがもう少し広い方がいいみたいです。	・訓練室やプレイルームの有効活用、時にはグループを統合した合同療育など、工夫でスペースを補いたい。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	41	8	0	1	・活動内容によっては職員数が変わっているかなと写真等で感じる。子どものトラブルに対しての応援態勢がどうなっているのかと思った。	・利用人数や活動内容で職員態勢を柔軟に配置しているが、応援態勢についての説明不足があるので、説明の機会を持ちたい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	42	4	0	1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	44	5	0	1		
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	46	4	0	0	・息子のことをよくわかってくださって接してくださりありがたいです。 ・子供の発達段階や特性を、担任の先生方がチームで話し合い、考えながらみてくださるので安心してお願いできています	・職員の資質向上のための職員研修と、支援会議等のチームミーティングの時間確保はこれからも十分に図りたい。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか 。	48	1	0	1		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	47	2	0	1	・面談の時間をしっかりとっていただけるので、家庭での様子や困りごとを相談でき、先生からは園での細かい様子を伺えるのでありがたいです。そのうえで子供に合った計画を作成していただいてい	・面談週間における定期相談に加え、担当者会議やチャンス相談など、語り、説明する機会は十分に確保していきたい。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援 」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	44	3	0	3		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	44	4	0	2		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	47	2	0	1	・毎月色々な活動があり様々な経験をさせていただけてありがたいです。 ・保育園では経験できない活動が頻繁に組まれていて、良い体験をさせていただけていると思います。	・児童発達支援プログラムの乗っ取り、５領域がくまなく展開できる活動プログラムの構築に努める。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	36	6	6	3		
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	50	0	0	0	・説明は丁寧にして頂きました。療育を検討している保護者向けの、つくし園のパンフレット的な書類がもっと充実していたら、利用にあたっての不安感が少し和らぐと思います。	・説明会資料の内容検討や、パンフレットの配布、HPやインスタグラムの更新をこまめに行いたい。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	49	1	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	44	3	0	3	・参加したい意見交換会や勉強会をご案内いただいたのに、私の予定が合わず参加できなかったのが残念でした。また来年も開催していただきたいです。 ・就学説明会などこれから必要となることを学べる機会をもらっています。	・ペアレントプログラムの年２，３回の実施に加え、保護者交流会や研修会なども保護者の意見を取り入れながら実施していく。

保護者への説明等	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	47	2	1	0	・悩みがある時はいつも親身に相談にのってくれるので大変ありがたいです ・通所日にはその日の活動内容をLINEで報告してもらっていて、活動内容がわかるようになっています。 ・いつもLINEや電話でこどもの様子を伝えてくれるので嬉しい。 ・特段のことがあったときはその都度電話連絡をもらっており、安心しています。	・電話やLINE、面談等で、直接保護者とのやりとりをするように心がけている。今後も継続したい。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	48	2	0	0		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	48	2	0	0	・利用2年目ですが、先生方に、面談等で意見を否定されたことはありません。価値観の押し付けや上から目線のアドバイスもありません。とにかく、話を聞きますよ、一緒に考えて支援していきましょうという姿勢で接していただき有り難いです。 ・いつも親身になって寄り添ってくださっていてありがたいなと思っています。 ・子供のそのままを受け止めたうえで療育活動をしてくださるので、子供がつくし園では安心して過ごしているのがよく分かります。子供の自己肯定感が下がらない環境を提供していただけてありがたいです。親に対しても、現在の課題を提示しつつ、子供本人や親の子育てに対して否定的なことをおっしゃらないので安心して相談できます。	・保護者の子育て観や教育観を尊重し、考えや意見を傾聴する姿勢を基本としながら、園の療育理念や活動に理解を求めるスタイルを大切にしていきたい。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	39	6	0	5	・親子活動やつくし園祭りに登園していない兄弟も一緒に参加できただけでも助かったのに職員の皆さんが登園している子達と同じように可愛がってくれてイベントにも参加出来たので凄く楽しい思い出になり感謝してます	・保護者会活動はなくなるが、これまでの行事は職員でできる限り分担して継続していく予定である。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	45	1	0	4		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	48	1	0	1	・登園時の活動内容や出来事を教えてもらえたり活動している写真も送ってもらえるので息子がどんな時間を過ごしたのか知ることができて嬉しいなと思っています。	・個々の活動の様子をとらえた写真提供は難しいが、できるだけ特徴的な様子を伝えていきたい。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	45	4	0	1	・グループによって、報告内容に偏りがある為、出来るだけグループだけでなく、本人だけの写真での報告もあると嬉しいです。	・個々の活動の様子をとらえた写真提供は難しい（職員の負担軽減）が、お便りやLINE等で、特徴的な様子を伝えていきたい。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	48	1	0	1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	43	1	0	6	・緊急時と感染症はよくわかるが、防犯がわからない。	・HPやインスタグラム等も活用した広報に力を入れたい。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	44	2	0	5		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか 。	45	2	0	3		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	47	2	0	1	・小さなけがでも必ず連絡してくれる。	・子どもの小さな変化に心配りをする支援は大切にする。
	27	こどもは安心感をもって通所していますか 。	49	1	0	0	・担当以外の先生も皆さん子供の名前を知っていて、つくし園に行くと笑顔で名前を呼んで挨拶してくださいます。「定型発達よりも手がかかる子」ではなく「〇〇くん」として大事に療育していただけているのが本人にも伝わっているので、つくし園が大好きなんだと思います。 ・保育園よりつくし園のLOVE度が高いのがこどもの会話でよくわかる。	・楽しく集える場の提供に今後も配慮したい。

満足度	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	48	2	0	0	・行けば楽しそう。行くまでは嫌がっている。 ・行けば楽しそうにしているが、行くまでは行きたくないと抵抗感を示す ・とても楽しく通わせていただいています。 ・先生方が皆さん、優しくて、特性に理解があり対応の仕方をご存知なので、本人も過ごしやすく、楽しいプログラムが多いので、つくし園が大好きです。 ・つくし園の日は「今日はつくし園？やったー！」と渋ることなく登園してくれます。 ・いつもつくし園の話しかしてくれません（笑） ・いつも楽しく通っています。ありがとうございます。 ・つくし園の登園日ではない日は、「えー」と残念がります。	・個への支援が中心になりすぎるので、グループ内の集団づくりにも留意した療育活動にも注力していきたい。
	29	事業所の支援に満足していますか。	49	1	0	0	・いつも息子にはもちろん家族にも寄り添って支援していただいていて感謝でいっぱいです。 ・つくし園があって本当に助かっています。先生方も皆さん優しくて、相談しやすいので有り難いです。 ・大満足です。 ・いつもきめ細やかに対応していただき感謝しております。ありがとうございます。	・子どもの発達に不安がある親に対して、いつも満足してもらえる通所支援、訪問支援、相談支援の充実を目指していきたい。

（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	薩摩川内市子ども発達支援センターつくし園（児童発達支援センター）

公表日　令和７年　３月　６日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		○	・児童の利用状況に応じて，訓練室などの他の教室を使うなどしている ・机の並べ方を工夫している。	・狭いため動きにくい。 ・実績のために登園人数を増やしているが、空間的には窮屈である。 ・利用人数の増加に伴いスペースが狭くなった。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		○	・職員が足りないときは合同で設定療育をするなど工夫している。 ・子どもの状況に合わせグループ分けしている。 ・職員数や利用児童によって活動内翼を工夫する。	・日常ではないが、身辺処理の際、職員不足を感じるときがある。 ・職員が足りない。 ・状況によって、職員が必要なときがある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・準備室を整理し、収納場所を確保する必要がある。 ・避難経路や給食搬入の動線にも配慮する。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・職員全員で隅々までよく清掃している。（清掃しにくいところの清掃用具に工夫が必要）	・雨天時は各部屋が混み合って危険性が高い。 ・衛生面を含め、エアコンのカビなどよくない。 ・遊具等には、長年使用し、劣化しているものもある。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか 。	○		・必要に応じて部屋が使用できるように、職員間で連携している。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		・クラス毎しっかり共有している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・個人面談で、業務目標や勤務状況などを管理者と情報共有できている。 ・面談で互いの意見交換ができている。	・意見が強いもののみが先走りし、雰囲気を乱しすぎである。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・研修の時間は確保され、職員も積極的に参加している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか 。	○			・支援プログラムは、骨子はできたが、職員の意見を取り入れ、全員で共有して進める必要がある。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		・一人一人の発達段階に応じた無理のない支援計画を策定している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・グループ毎の支援会議の際、様々な支援方法について意見交換ができている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・担任を中心に、チーム態勢で療育ができている。 ・クラス毎の話し合いで、活動プログラムを作成している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・いろいろな素材で手作りし、変化に富んだ教材を用いた活動を実施している。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・短時間で簡潔な共有を図っている。 ・バス添乗で全員が揃うことがあまりないので、時間を見つけて共有している。	・バス添乗があるので，全員揃うのは難しい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	○		・できる日はしている。 ・時々実施している。 ・毎日振り返りの時間は確保できていないが、短時間でできるよう心がけている。	・必ずできるかということではない。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	28	（28～30は、センターのみ回答） 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○			
	31	（31は、事業所のみ回答） 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか 。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○			
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		・ペアレントプログラムの回数を増やし、より多くの参加を促した。	
保	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・利用者の蓋については特に丁寧な説明を行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか 。	○		・個別面談など、情報共有する場を積極的に設けている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		・今年度をもって解散するので、今後の在り方の工夫が必要である。	・きょうだい同士という機会は設定されていない。 ・年１回親子活動を実施し、保護者同士の交流も含めた体験活動を実施してる。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			・行わない理由などが，大人（職員）都合の内容になっている。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・月１回ほど訓練がある。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	○			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・月１回の話し合いを実施している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			